

心肺蘇生の手順会得 六日市中生ら救命訓練

吉賀

心肺蘇生法や自動体外式除細動器(AED)の使い方などを学ぶ救命訓練が27



インストラクター(左)の指導で胸骨圧迫を実習する生徒

日、吉賀町六日市の益田広域消防署六日市分遣所であり、近くの六日市中学校の1年生と教員計20人が、講習を通じて救急措置の

方法を会得した。昨年受講した同校の教諭が、4月に町内で開かれたマラソン大会で一時、心肺停止になったランナーを救っており、参加者が熱心に実習に励んだ。

ストラクターの指導で、1分間に100〜120回の速さで胸骨を5センチの押し込む胸骨圧迫や人工呼吸など救急措置の流れを確認した後、専用のマネキンを使い、胸骨圧迫と人工呼吸に取り組んだ。AEDの説明では、音声案内に従ってマネキンに電極パッドを貼り付けるなどの操作手順を学んだ。

(吉野仁士)

六日市中教諭ランナー救命 AED操作生徒学ぶ

吉賀



花田隆文教諭

吉賀町の六日市中3年生と教員計21人が28日、益田広域消防署六日市分遣所で自動体外式除細動器(AED)を使った救急救命法を学んだ。町内の全4中が対象で、2013年から対象で、2013年受講した同校の花田隆文教諭(34)は、ことし

AEDの使い方を練習する生徒たち



この日は、救急救命士ら8人から人工呼吸などを教わった。買い物中の男性が倒れたなどの想定で、AEDのパッドをマネキンに貼るなどして操作方法を習得した。

4月のよしか・夢・花マラソンでランナーの命を救った。生徒と一緒にボランティアで給水所にいた花田教諭。走り抜けた60代男性が急に倒れ、意識がないことを確認すると、タオルの用意など生徒にも手伝ってもらい、AEDが届くまで胸骨圧迫などを続けた。男性は搬送後、一命を取り留めた。本人から感謝の手紙を受け取った花田教諭

は「助かって良かった。対処できたのは講座で救命法を習っていたからこそ」と話す。講座は六日市病院の医師や看護師らでつくるNPO法人六日市ECC協会が開いた。受講者には国際認定証を渡し、ことしはこの日までに全7回を終え、計約110人が受講した。

(江川裕介)

(島根 ECC トレーニングサイト)

第12回 よしか・夢・花 マラソン

4月30日。今年で6年目になります「救護班」の出動です。

六日市病院の職員とNPO法人六日市ECC協会の会員、総勢22名がコースの6か所の救護所にわかれ、ランナーの救急事態に備えました。

今年は、いい天候となり、ランナーの体調が朝のミーティングの時から心配でした。

案の定、CPA(心肺停止)が10キロ付近で発生しました。しかし適切な胸骨圧迫とAEDの使用そして救急搬送により助けることが出来ました。念のためドクヘリで三次救急指定病院に転送することになりました。(救命の連鎖が上手く働きました)

昨年「ハートセイバーCPRAEDコース」を受講した六日市中学校教員と六日市学園教師が今回の心肺蘇生に関わりあい、大切な命を助けることができました。

我々が救護班として参加してから6年間で3度目のCPAでしたが、全て助けることが出来ています。

この結果は、NPO法人六日市ECC協会や六日市病院の心肺蘇生教育の成果です。

今年で6年目になる町内中学生(教員も含む)に対してのハートセイバーCPRAEDコースの受講も継続していく必要がありますし、重要性が増してきました。

このマラソン大会だけではなく、心肺停止になった方に対して即座に躊躇せずに心肺蘇生ができるような素晴らしい町づくりを目指して今後も活動していきます。



ドクヘリの
様子を覗う
谷浦隊長。